

## 第 1 4 回返還予定ガラス固化体データの誤りの概要について

### 1. 事象の経緯

平成 22 年 10 月 13 日 : 「第 14 回返還予定ガラス固化体の概要」についてお知らせ。  
(関西電力、四国電力、九州電力)

平成 22 年 10 月 22 日 : 英国事業者より、返還予定のガラス固化体のうち、10 本  
(四国電力 1 本、九州電力 9 本) について、既に提出されて  
いる廃液の分析データの一部に誤りがあるとの報告を  
受ける。

⇒ 誤り①

平成 22 年 11 月 5 日 : 誤り①に係る調査の過程で、英国事業者より、さらに 5  
本 (四国電力 3 本、九州電力 2 本) について、誤りがある  
との報告を受ける。⇒ 誤り②

平成 22 年 11 月 8 日  
～17 日 : 英国セラフィールドサイトにて、現地調査を実施。  
・原因と英国事業者の対策の調査・確認  
・第 13 回返還ガラス固化体および第 14 回返還予定ガラ  
ス固化体のデータのうち訂正分を除き、誤りがないこと  
を確認  
・誤りの訂正状況について確認

平成 22 年 12 月 3 日 : 英国事業者より訂正後のデータを受領。

平成 22 年 12 月 15 日 : 訂正後のデータについて、誤りがないことの確認を行い、  
日本原燃および原燃輸送に訂正後のデータを提供。

### 2. 影響の程度

10 月 13 日公表資料別紙のうち、今回の誤りにおいて影響を受けたデータは、  
○発熱量  
○放射性物質の種類毎の放射能濃度  
であるが、訂正後も記載数値 (返還予定ガラス固化体 76 本の最小～最大) の範  
囲内であった。

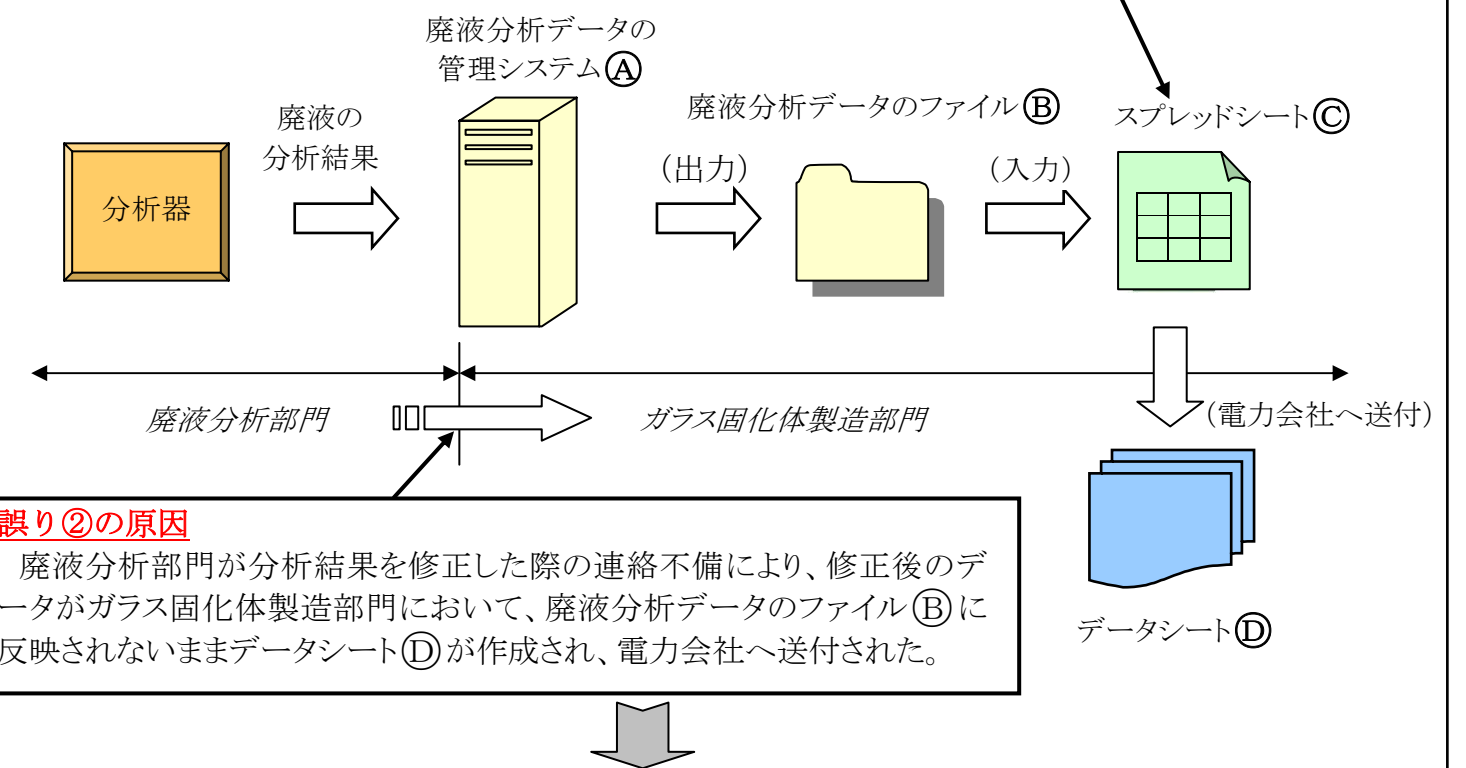
### 3. 原因と主な対策

英国事業者からは、廃液の分析結果を入力したスプレッドシートで作成されたデータシートが電力会  
社へ送付される。

今回の誤りは、最新データの管理ミス (誤り①) と分析結果の連絡不備 (誤り②) により、このデー  
タシートの中に一部最新でない情報が使用されていたものである。

#### 誤り①の原因

スプレッドシート③更新時、最新のデータが移行されないまま、スプレッド  
シート③によりデータシート④が作成され、電力会社へ送付された。



#### 誤り②の原因

廃液分析部門が分析結果を修正した際の連絡不備により、修正後のデー  
タがガラス固化体製造部門において、廃液分析データのファイル③に  
反映されないままデータシート④が作成され、電力会社へ送付された。

#### 主な対策 (誤り①及び②)

##### 【英国事業者】

- 分析データの受け渡しに係る情報連携の強化 (情報受信者の拡充、送信者による受信確認など)
- 電力会社へのデータシート④送付前に、廃液分析データ③、データファイル③及びデータシート④間の照合を行うことを手順に明記する。

##### 【電力会社全体】

- 英国事業者から、最新の廃液分析データのファイル③を追加提出させ、データシート④との照合を実施
- 英国事業者から提出されたデータシート④が最新の廃液分析データ③となっていることを英国での (搬出前) 検査時に現地確認

##### 【ロイドレジスタ】

- 技術監査を委託しているロイドレジスタの監査対象の拡大、監査時期の適正化を図る。